

専門研究 B

小・中学校等に在籍している視覚障害のある 児童生徒等に対する指導・支援に関する研究

(平成22年度)

研究成果報告書

平成23年3月

はじめに

国立特別支援教育総合研究所の視覚障害教育研究班では、平成22年度の1カ年において専門研究B「小・中学校等に在籍している視覚障害のある児童生徒等に対する指導・支援に関する研究」に取り組んでまいりました。

この度、ここに研究成果報告書を作成できましたことをご報告するとともに、本研究の一環として昨年12月に全国の視覚障害者を教育する特別支援学校（以下、盲学校という）を対象に実施いたしました「特別支援学校（視覚障害）におけるセンター的機能の充実に関する調査」にご協力を賜りましたことに対しまして心より感謝申し上げます。

おかげをもちまして、調査用紙を送付させていただきました盲学校70校（2分校を含む）の全てから回答を得ることができました。

平成21年3月に告示されました特別支援学校小学部・中学部学習指導要領では、小・中学校等に在籍している障害のある児童生徒や担当教師への支援や地域の保護者等への教育相談を行うなど、他機関等と連携を図りながら地域における特別支援教育のセンターとしての役割を果たすことが明記されております。

また、同じく平成21年12月には内閣府に障がい者制度改革推進本部が設置され、障害者施策等の専門家から成る「障がい者制度改革推進会議」において活発な議論が行われ、障害のある子どもたちの教育につきましても、抜本的な改革が必要であることが意見としてとりまとめられました。さらに、この議論を受けるような形で、平成22年12月には中央教育審議会初等中等教育分科会において、「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」による論点整理が示されました。

これらの意見や論点整理を見ていきますと、今後は我が国においてもインクルーシブ教育の制度へと向かっていくとともに、現在よりも一層、地域の小・中学校等で学ぶ視覚障害のある児童生徒等の数が増えることも想像に難くありません。

このような社会情勢を踏まえ、本研究では全国の盲学校のセンター的機能の現状と課題についての実態調査を行うとともに、実際に学校訪問を行い、通常の学級で学んでいる視覚障害のある児童生徒の状況を把握することにより、その現状と課題を整理いたしました。

また、本報告書では、特別支援学校のセンター的機能に関する他の研究成果の一部を共有するという新しい試みも行っております。実際には、専門研究A「特別支援学校における支援システムの充実に向けた総合的研究－特別支援教育体制の取組の状況とその改善に向けた課題に関する調査研究－」（研究代表者：松村勘由）の研究成果の盲学校に該当する部分を、各盲学校におけるセンター的機能に関する取組の実態がより明確になるよう再構成し、本報告書に付け加えました。

本報告書に目を通していただき、皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

平成23年3月

研究代表者
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
田 中 良 広

目次

はじめに

第1章 研究の概要	1
1. 研究の趣旨及び目的	
2. 研究の方法	
3. 研究の組織	
第2章 特別支援学校における支援システムの充実のための取組に関する調査結果から —視覚障害教育を専門とする特別支援学校の地域への支援の仕組みと機能について— ...	3
1. 特別支援学校における支援システムの充実のための取組に関する調査の概要	
2. 視覚障害教育を専門とする特別支援学校の地域への支援の仕組みと機能について	
3. 盲学校の地域支援の現状から今後に向けて	
第3章 盲学校におけるセンター的機能に関する実態調査	13
1. 調査の背景	
2. 調査の目的及び方法等	
3. 調査結果及び考察	
第4章 小・中学校に在籍する視覚障害児童生徒の実態について —事例報告と観点の整理—	23
1. はじめに	
2. 質問紙調査の結果と本章での記述項目	
3. 事例—盲児と弱視児の事例—	
第5章 総合考察	39
巻末資料	43
執筆者一覧	53